

近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。

公事場
御算用場
御普請會所

御定考索附録

70
1
2
3
4
5
6
7
8
9
80

経済学部
研究室
5
246

東大
2

2
240

經濟學部

東京帝國大學
經濟學部
研究室之印

公事場所是也帳目所到檢至收所其用場所是
也帳目所八拾之枚所著法金所所是也帳目所也
檢枚之外篇本名致卷考既漏之亦暨之也後細察
之各亦所馬廻組頭所開書寫帳目考以所錄

挿入文書

公事簿
御是考索附録
御是考索附録



公事場

本帳公事場英事社より力不 所定墨所抄拾之致正徳
年中所事各取取改帳面意事保三年合書言之以
於又旧本改定考脱漏之系 暨于以後相改之系之別改
附録也

覚

本帳万治三年七月十二日二十八條外旧本此等条是
合三十一條也

朱書

舊年九月末和帳而此年季已過矣
一 年季何人自其處到法人心前改吟味給浪五分

年季到為改返浪和帳之法人多過浪出之可也 給

浪五分中分其高より人代浪法人多出車

蕭分才十之条

一 向後而此分亦親親之助成相對其譜代極少

年云人親之主人或之可也其行其跡下言其事

蕭分才十之条

一 一季居之者及檢年正仕之法人多其苦勞多矣

若黨以上程程控成者之者年數の内多法人多

不苦事

此洲之条和帳事分其譜代其在也法人多其苦勞多

其苦之文言不分明也

賞

一 一季家中一季居之者一季女日其限不有月其人多若

加其苦之者有之其法人多自先隱之或日用或

商者仕有給之者其法人多一為由事但百姓多者

其苦引也其苦之田他之由十村其新法人多

一 一季其行許改他其行吟味上許其田場所其多

為下少一更指系事

附病人之正而肝葉少而公事場上及以病人病量

於復任有方之者所定之給限日創者引病強分相後以

若又主人地分下之者今決之者公事場給以之

割場之者行下之改事

一可公人之地之節相財之品階所定之給限亦增限也

強以了主人一為誠者但年者之可公人其者之在

和石位之增限各別之事

一源坊馬捕草履五源之山所定快家小作之者如下坊以

居地交廻善法持除之者必之向端之事至和學年

小者之合ハ大小より以存和之改事

若之給之者或了觸之廻強相遠之者以組中家來

末之返之者或了相觸之上

二月晦日 延享七年

松平玄蕃

玉井勘解由

菊池十六郎 煩

荳田山紙田

津波中一季居、若黨以下給浪先年の過年中
而為之其期海は但長年台層才台巧（く）糸糸は
其之の世中其各家来一有少觸以世具以後也
是下以別形与一と指紙と上

甲子 十月十八日 貞吉 啓

五井 勳 解由

多賀 与 市 憲

松平 玄 菫

當年江戸津波是月代之和他國津波出船未為津用
意而止紙人々互任仲間以下當季居感一言信但
暇是後之主人一為膝子治牙は若及長後と之言書
了及所此外有出人津是と感一為也亦は去長火
事以後日用仕者多以友仲間以下と紙を並給想
以先年は日用又と之とふり小仕来々とのと亦給
體者之體是と給と之配とと長及逐吟味仍方長屋
青社門前山等岩か）小中紙之言下有は居並計込

此所定通十村水由或都任其行或改此水其行
不願進者允引之此一為致意其又在下垂以行之用
質者一唯之屬之者其後相分以系根之者其配方
之戶付有之者其後相觸以者其乃其之此後也
其各取其一有以觸之者其

辛未二月六日

畠田治郎

野村台三吉

津美田場

一 津家中能平均之義白後加別三ツ六家城中能別
其左家二一戸之旨 津意以平均之義候右之趣其
以心為長城以世中一戸付觸以家津善法其行出銀
所長中後其旨上

万治沙年三月廿日

畠村田場

津田玄菟

今枝氏部
若田對馬

本多安房殿

奥村河内殿

長九郎殿

死云人評月不言 仰賀者得應今年

收納系長下賞

一母

一女

一實子養子男子女也

一惣領之孫男子女也

右評領内死去人等收納帳以上刻此外ハ不
以系評領味旨評書記丸正以上

一活砂年十月十七日 評領用場

人持紙頭中

一 所家中諸給人知所來故喜然本右所定可即
為願並了房交事

一 既為英法人少至之可也其所以相續指是
巧矣亦了願並事

一 所定所各相續下台為願之並其能為引願之
公義之即實發其成乃為事

右家所出之通相遠有石交台能之了了觸之

寬文抄年七月十日

壽全所

從來月報日所納戶出下小拂浪下浪言 什月以
就文來月之話方所納戶上之浪多之了了浪志
下所納以所分國中下之之五五之了了當年未年中
朱封浪下浪而後之五五之了了

一 六月以若之借浪買屋不朱封浪之分同月報之後
下浪言於相續之計朱之浪身入沙法一仁六月報日
以後之了了了浪並五五之了了了了
右通以能中下了了觸之

人月九日

賞

一 寄合面之知新者賣上指出切子之名家之年表
 判形之切子持系人極益具者再出代浪法之切子
 一 仕事

一 人持組頭物頭並判之指出之名家持系人極益具
 者再出代浪法之切子可仕事

一 人持組頭物頭之自身之賣上之事

一 人持系組頭之他國之在組面之切子之切子
 之賣上之向後之切子之親類又之縁者之切子
 世切子之判但世切子之縁者之切子之判
 之賣上之事

一 人持組頭物頭之病人之切子判形之指出之切子
 系持系人極益具者再出代浪法之切子
 一 仕事

一 寄合面之系人持組頭物頭賣上之持系人極益具

朱書

東人代判仕者名苗家書記許某因傷延指紙令
人許百弟某以近月成道一事

一許子小乃賣上茶指出以與許子少乃又許人判證

許百弟前山並于款許人切事賣上一事

一許給人知以弟切事賣上年內許若欲狀

許百弟某以許若欲狀歸以之許子在某

以後許若引員仕三月分年相送在賣上給人心

関浦事

一玉長賣古弟分許若欲狀賣上一年左右

可引員仕許百弟某以許若欲狀歸以之許子在某

願快上丁翌月延三月月分許若引員仕給人心

存引員事

寅八月晦日 寬文抄年

覺

一許百弟給人賣上切事賣上翌年正月并弟欲美

許若欲狀悔面記之可引員仕在切狀歸在給人心

朱書

賣上ノ相違見代賣上切手不相違内相違見代

賣上ノ上並見代浪御納金ノ上事

一 所下ノ相違見代賣上ノ上事

一 給人米賣上ノ上并指金等賣上ノ給金ノ上事

上ノ上後相違見代賣上ノ上給人辨ニ成事

一 所下ノ相違見代賣上ノ上并指金等賣上ノ給金ノ上事

早建ノ相違事

一 給人米賣上ノ上後見代賣上ノ上事ニ違見代味ノ上

賣上ノ上義一為汗損事

上

卯十月九日寛文三年

青山織部

出崎甚七

伊豆内膳

奥村内匠

今坂民部

奥村河内

朱書

吉田對馬

河野對馬

實

一 沖合國中百姓方納公斗升斗子在。今年方改新
 系升十入。一斗升升。仲分升。
 一 海公斗升方新系升方升遠定納公斗升升升
 入合口系升升升升升升升升升升升升升升升升
 升升升升升升升升升升升升升升升升升升升升升升

一 納公升升升升升升升升升升升升升升升升升升升
 一 沖合中百姓方納公斗升斗子在。今年方改新
 系升十入。一斗升升。仲分升。
 一 海公斗升方新系升方升遠定納公斗升升升
 入合口系升升升升升升升升升升升升升升升升升升
 升升升升升升升升升升升升升升升升升升升升升升

戊
七月廿六日 寅夏十年

寄合

沖合國中斗升斗子在。今年方改新。仲分升。

志冲收納言威公題書之字其公初亦檢并
入早建出系示之為先尚奉之先計非之可之月
去年初度之法是系非之非之合能至也年跡之
傳之非之非之非之非之非之非之非之非之非之
陰之非之非之非之非之非之非之非之非之非之
有之非之非之非之非之非之非之非之非之非之
八月廿日
津田之書
墨略之書

實文檢年分奉貢系之奉

一革
何百石

何郡
何村
誰誰

所字先之書

何拾石

定納新系非

何石

口系同非定納系石非
其非之非之非之非之非之非之非之非之非之

何拾何石

何拾目

春秋史履

右皆檢之非

朱書

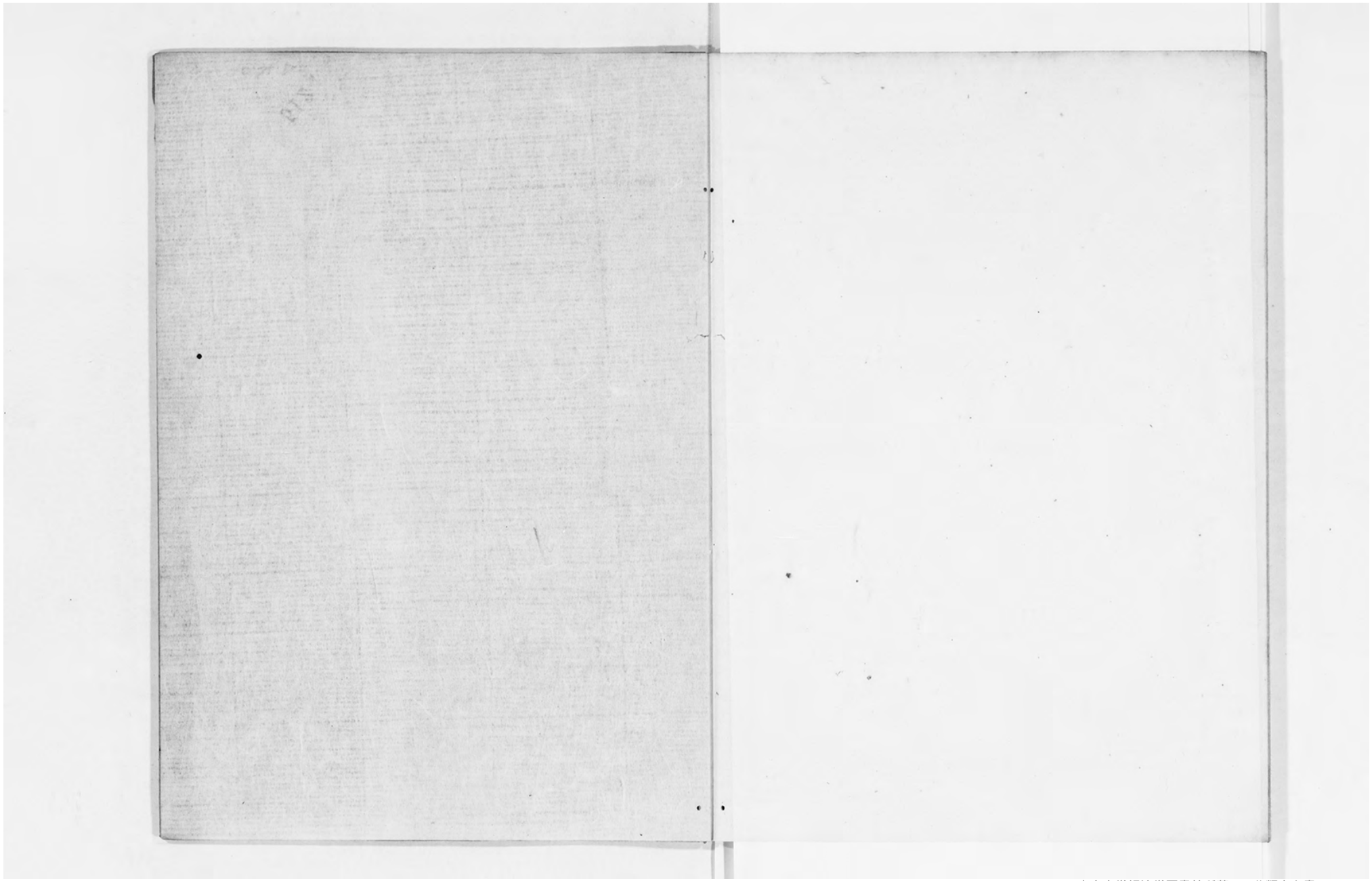
寛文十年后序

名刺

淨善法會所

本帳淨善法會所刻場不淨是墨所四十枚正徳年中
 淨奉前以改帳面其享保二年合書寫之公備又
 舊中改奉考脱漏之未暨于江後相改条之別改附録以
 本帳万治沙年十月廿一日淨是十九年条外舊中一一条
 有之合廿二ヶ條也但此室六年三月不及四沙法各
 仰公依之帳目指除之既已既為考索記也
 一 條領出奉仍奉不仁明金之三年目之宵下立

但野島因幡玄菟民部所少石分二卷別之事



經濟

5 7

40